

単元名 1 深まる学びへ ー学びて時に之を習ふー ―「論語」から 配当時間 2時間

単元の目標 (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
(2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。
(3) 人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとする。

標準的な展開例

12210104_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 孔子や「論語」について知り、「論語」にまとめられていることを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 孔子や論語についてまとめよう。 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 「論語」という作品について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文と出典 (p. 30) を読み、孔子と論語の基礎知識をもつ。 ○ それぞれの言葉を聞く。 <p>○ 漢文のきまりについて復習する。</p> <p>○ それぞれの章句を音読する。</p> <p>○ それぞれの言葉について、内容を捉える。</p> <p>2 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験や伝聞を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合う。 ○ 前時の学習内容を確認しながら書き下し文を読む。 ○ 現代語訳を確認する。 <p>○ 日常生活や自分の生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験や伝聞を伝え合う。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語便覧や社会科資料集などを使って、孔子が生きた時代の歴史的背景等を確認させる。 ・ 教師による範読か、国語指導CDを聞かせてもよい。 ・ 孔子の言葉がまとめられたものなので、「子曰はく」から始まっていることを説明する。 ・ 送り仮名、返り点、訓読文、書き下し文について既習事項を本文を用いて確認する。 ・ 書き下し文を繰り返し読ませ、漢文独特の調子に慣れさせる。 ・ 脚注を参考にしながら、現代語訳をさせる。 【評】教材の書き下し文や訓読文を読み、現代語訳をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 斉読やグループ読み、個人読みなど、工夫をして読ませたい。 ・ 「曰く『……』と。」「また……ずや。」「……則ち……」など、漢文独特の表現について解説する。 ・ 「論語」の他の言動も現代語訳を付けて紹介し、選択肢を増やすとよい。 【評】孔子の言葉を自分の生き方や生活と関連付けて考え、伝え合う活動を通して、「思考・判断・技能」を評価する。 ・ 小グループやペアで行うことで全員に発表させる。 【評】自分たちの生活に生かしたい言葉を伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【備 考】

第3学年のスタートにあたり、第2学年までの学習を生かしつつ、言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説、古典を通して、言葉の力や豊かさに気付かせ、そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また、これらの学習活動を通して、第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導にあたりたい。

また、小説の登場人物も古典に描かれた生き方も、自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として、読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ、第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。